

整形外科学

責任者・コーディネーター	整形外科学講座 土井田 稔 教授		
担当講座・学科(分野)	整形外科学講座		
担当教員	土井田 稔 教授、山崎 健 非常勤講師、古町 克郎 講師、田島 吾郎 講師、村上 秀樹 講師、安藤 貴信 講師、小野寺 智彦 助教、佐藤 光太郎 助教、遠藤 寛興 助教、菅原 敦 助教、多田 広志 助教、三又 義訓 助教、亀井 陽一 助教、丸山 盛貴 助教		
対象学年	4	区分・時間数	講義 27 時間
期間	前期		

・学習方針（講義概要等）

整形外科学は、身体の姿勢および運動器（骨・関節・靭帯、筋・腱・腱鞘、脊髄・馬尾・末梢神経、血管）に関する臨床医学である。すなわち、機能解剖と運動生理の理解に基づいて、運動器の疾病・外傷の病因・病態と診断・治療法を究明する学問である。診断・治療法には放射線学的・病理学的・神経学的・一般外科学的手法も必要であり、新生児から高齢者まで、また、頸部・体幹から上・下肢までと守備範囲は広い。そして治療法も外科療法のみならず、装具療法や運動療法を含む保存療法も大きな比重を占めている。運動器の医学・医療をもって、健康と社会への貢献を目指すことが基本理念である。

・一般目標（GIO）

医師として必要な整形外科学の基本的診察・診断ができるようになるため、診察法・検査法の原理・原則を学び、主要な運動器疾病・外傷の病因・病態に即した保存療法・外科療法を理解し、診察・治療の基本的知識・基礎的技能を身につける。

・到達目標 (SBO)

1. 運動器の構造と機能を説明できる。
2. 運動器疾病・外傷の診断・治療における病歴（主訴、現病の経過・治療歴、合併症、既往症、家族歴、職業歴、スポーツ歴、外傷歴など）の重要性を説明できる。
3. 歩行・姿勢・肢位の異常（跛行・変形など）を、疾患・治療法と関連づけて説明できる。
4. 四肢長・周径、関節可動域（ROM）の測定ができる。
5. 神経学的診察法（徒手筋力テスト MMT、表在・深部反射、病的反射、表在・深部知覚検査、症状誘発・寛解手技など）の実施と意味の説明ができる。
6. 画像検査（X線、CT、MRI、ECHO、骨シンチ、各種造影など）、電気生理学的検査（筋電図、神経伝導速度など）、関節鏡検査、生検の意義を列挙できる。
7. 運動器疾患の保存療法、外科療法、リハビリテーションの概要を述べるができる。
8. 運動器の外傷に対する診断・治療・管理の概要を述べるができる。
9. 骨・関節・靭帯、筋・腱・腱鞘の炎症の原因・病態（急性、慢性、特殊性）と診断・治療の概要を述べるができる。
10. 新生児・乳児・小児疾患の初期症状、病因・病態、診断・治療の概要を述べるができる。
11. 加齢変性に起因する疾患の病態と治療の概要を述べるができる。
12. 骨・軟部腫瘍の診断・治療・予後の概要を述べるができる。
13. スポーツによる運動器外傷・障害の診断・治療の概要を述べるができる。
14. 職業による運動器傷病の診断・治療の概要を述べるができる。
15. 緊急検査、緊急手術を要する疾病・外傷の診断・治療の概要を述べるができる。

・ 講義日程

(矢) 西 104 1-D 講義室

【講義】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
5/27	火	1	整形外科科学講座	土井田 稔 教授	総論、運動器疾患の診断と治療
5/27	火	2	整形外科科学講座	土井田 稔 教授	腰椎疾患と外傷
5/29	木	3	整形外科科学講座	山崎 健 非常勤講師	脊椎変形
5/29	木	4	整形外科科学講座	小野寺 智彦 助教	骨端症、小児整形疾患・先天異常
5/30	金	1	整形外科科学講座	佐藤 光太郎 助教	肘関節・前腕の疾患・外傷
6/3	火	1	整形外科科学講座	丸山 盛貴 助教	講義タイトル 膝関節・下腿の疾患・外傷
6/3	火	2	整形外科科学講座	菅原 敦 助教	講義タイトル 足関節・足の疾患・外傷
6/6	金	1	整形外科科学講座	多田 広志 助教	講義タイトル： 骨腫瘍
6/6	金	2	整形外科科学講座	三又 義訓 助教	軟部腫瘍
6/10	火	1	整形外科科学講座	村上 秀樹 講師	頸椎疾患、脊椎・脊髓損傷
6/10	火	2	整形外科科学講座	村上 秀樹 講師	感染性脊椎炎、脊椎・脊髓腫瘍
6/12	木	3	整形外科科学講座	田島 吾郎 講師	スポーツ障害・外傷 総論
6/12	木	4	整形外科科学講座	田島 吾郎 講師	スポーツ障害・外傷 各論
6/13	金	1	整形外科科学講座	亀井 陽一 助教	肩甲骨・肩関節・上腕の疾患・外傷

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
6/13	金	2	整形外科学講座	小野寺 智彦 助教	骨盤・股関節・大腿の疾患・外傷
6/17	火	1	整形外科学講座	安藤 貴信 講師	関節リウマチと類似疾患
6/17	火	2	整形外科学講座	安藤 貴信 講師	代謝性骨疾患、感染性疾患
6/19	木	4	整形外科学講座	古町 克郎 講師	手・手関節の疾患・外傷

・教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	標準整形外科学 11 版	中村利孝 他編	医学書院	2011
参	整形外科診断学 改訂 3 版	辻陽雄、高橋栄明 編	金原出版	1999
参	EXPERT 膠原病・リウマチ 改訂 2 版	住田孝之 編	診断と治療社	2006
参	実践アトラスでよくわかるスポーツ外傷・障害診療マニュアル	青木治人 編	全日本病院出版会	2005

・成績評価方法

筆記試験 80%、出席点 20%、合計が 60%以上を合格とする。
再試験は、筆記 80%、レポートまたは面接点 20%とする（再試験においても合計 60%以上を合格とする）。

1. 整形外科学概論

- (1) 整形外科学とは
- (2) 運動器の構造と機能
- (3) 運動器の病態と修復
 - 1) 骨：修復、移植骨の生着、骨端軟骨板の反応、人工骨
 - 2) 関節：水症と血症、強直・拘縮と動揺性、半月板・関節軟骨・靭帯の修復・再建
 - 3) 筋・腱：病態、修復
 - 4) 神経・血管：病態、修復
- (4) 診察法
 - 1) 姿勢・歩行と四肢・体幹運動
 - 2) 四肢長、周囲径と徒手筋力テスト
 - 3) 関節可動域測定・表示法と可動域異常（強直・拘縮と動揺性）
 - 4) 良肢位・機能肢位、四肢・脊柱の変形
 - 5) 異常運動と歩行異常
 - 6) 運動麻痺と感覚障害
- (5) 検査法
 - 1) X線診断（単純X線、FCR、CT）
 - 2) MR診断
 - 3) 超音波診断
 - 4) RI診断
 - 5) 造影検査診断
 - 6) 電気生理学的診断（EMG、NCV、SCV）
 - 7) 関節鏡
 - 8) サーマグラフィ
 - 9) 臨床検査（血液、尿・便、髄液・関節液・穿刺液・膿、細菌、病理）
- (6) 治療法
 - 1) 保存療法：薬物、理学、固定、牽引、運動、装具、義肢、放射線、レーザー、超音波、低周波、超短波、磁力、リハビリテーション
 - 2) 穿刺：関節、大槽・腰椎、椎間板、滑液包、膿瘍、腫瘍、のう腫、血腫
 - 3) 手術療法：皮膚、筋・腱鞘・腱、骨・関節・靭帯、脊髄・馬尾・末梢神経、血管

2. 整形外科学各論

- (1) 先天異常
 - 1) 上肢
 - 2) 下肢
 - 3) 体幹
- (2) 炎症性疾患
 - 1) 感染症
 - 2) 関節リウマチと類縁・類似疾患
 - 3) 物理的・化学的炎症
- (3) 変性性関節疾患
 - 1) 変形性関節症
 - 2) 脊椎の変性性疾患
 - 3) その他の変性性疾患
- (4) 無腐性骨壊死と発育異常に伴う疾患
 - 1) 一般的事項
 - 2) 一次性骨化核の疾患

- 3) 二次性骨化核の疾患
- (5) 骨・軟部腫瘍と類似疾患
 - 1) 原発性骨腫瘍
 - 2) 転移性骨腫瘍
 - 3) 軟部腫瘍
- (6) 汎発性骨疾患
 - 1) 骨異形成症
 - 2) 骨粗鬆症
 - 3) 代謝性・内分泌性疾患
- (7) 神経、筋、血管の疾患
 - 1) 神経疾患：脊髄・馬尾・神経根・末梢神経の障害
 - 2) 筋疾患：筋・腱・腱鞘の障害
 - 3) 四肢血行障害

3. 災害外科学

- (1) 外傷学総論
 - 1) 救急運動器外傷
 - 2) 骨の外傷
 - 3) 関節・靭帯の外傷
 - 4) 筋・腱の外傷
 - 5) 神経・血管の外傷
- (2) 小児の外傷
 - 1) 小児骨折の特徴
 - 2) 上肢
 - 3) 下肢
 - 4) 体幹
 - 5) 合併症
- (3) 成人の外傷
 - 1) 成人骨折の特徴
 - 2) 上肢
 - 3) 下肢
 - 4) 体幹
 - 5) 合併症
- (4) 老人の外傷
 - 1) 老人骨折の特徴
 - 2) 上肢
 - 3) 下肢
 - 4) 体幹
 - 5) 合併症
- (5) スポーツ外傷
 - 1) 外的因子
 - 2) 内的因子
 - 3) 過度使用

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	スキャナ透過原稿ユニット (ES-10000G)	1	学生講義用
講義	モノクロ複合機 (MF6570)	1	学生講義資料
講義	カラーレーザープリンター (LBP5900SE)	1	学生講義資料
講義	ノートパソコン一式 (MB062J/A)	1	学生講義用